

(様式1)

自己評価票

作成日 平成24年10月25日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870301181		
法人名	株式会社 マツウラ		
事業所名	グループホーム きらめき2	ユニット名	A
所在地	〒300-0837 茨城県土浦市右廻2743-1		
自己評価作成日	平成24年4月10日	評価結果 市町村受理日	平成24年10月22日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0870301181&SCD=320&PCD=08
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成24年6月28日	評価確定日	平成24年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none">○医療機関 内科、皮膚科、歯科と連携している。○広報紙を隔月発行している。○食前の口腔体操、きらめき体操実施している。○日中は玄関に施錠しない。○利用者と年齢が近い職員が多く、共感出来る。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>職員は利用者一人ひとりの個性を尊重し、その人らしい暮らしの実現に向けて日々の支援にあたっている。</p> <p>事業所を開設して8年目となるが、年々地域との係わりも深まり、災害時においても協力関係を築いている。</p> <p>重度化や終末期の対応は、医療関係者や家族等と協力してできるだけ利用者の思いや希望にそった最期が迎えられるよう支援している。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を玄関、各棟ホールに掲示し、外部にも知らせている。又職員の名札の裏面に入れ、日頃から浸透させ、実践に努めている。	理念は地域密着型サービスの意義を踏まえ全職員で協議して作成し、玄関や各ユニットに掲示している。 施設長は壁面に掲示している理念が景色の一部になることを懸念し、職員の名札の裏に記載して意識付けもしている。 月1回開催するケア会議ではもとより、報道で介護施設における虐待の話題が出たりするたびに全職員で理念に基づく支援ができていないか振り返り、共有しながら実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学生が来園し、利用者や交流したり、行事の招待を受けたり、祭りの休憩所として頂いている。また地域の方に、ボランティアとして定期的に来て頂いている。また毎年、文化祭に利用者の作品を出展し、観に行っている。	事業所は自治会に加入し、子ども神輿の立寄り場所となり飲み物やスイカを振舞ったり、近隣の小学生の体験学習を受入れているほか、貼り絵や暖簾といった利用者の手作り作品を公民館に出品するなど、地域の一員として交流している。 地域住民から認知症の介護や入居施設の相談を受けたり、事業所で開催するAEDの講習会に地域の人々の参加を呼びかけるなど、地域に貢献している。 歌やギターの演奏、専門学校生が行うドッグセラピーなどのボランティアを受け入れ、利用者が日常的に地域と交流ができるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生の来園時、話をしたり、地域の区長さん、民生員さんを通じて理解を得る努力をしている。また見学に来られる地域の方の相談にのっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、取り組み状況、ひやりはっと報告等を行い、議事録は、ご家族にも送付しています。委員の方に情報を頂いたり意見交換したことを職員に伝え、サービス向上に努めている。	運営推進会議は2ヶ月に1回利用者や家族等、市職員、介護相談員、区長、民生委員、協力医療機関の看護師などで開催している。 会議では利用者や職員から2ヶ月間の生活における行事やヒヤリハットなどの報告をしているほか、市職員から介護保険法改正の説明があったり、看護師から流行りの病や季節に応じた注意事項の説明があるなど、活発な意見交換を行っており、出た意見等をサービスの質の向上に活かしている。 毎回家族等に議事録を送付するとともに次回開催予定を連絡し、参加を呼びかけている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進委員会市の高齢福祉課職員や市社会福祉か職員、社協介護相談員、必要に応じて、地域包括支援センターに相談をしたり、協力を仰いでいる。	施設長は市を訪問して事業所の空き情報や生活保護受給者の介護計画などの書類を担当者に手渡したり、介護保険法改正などの分からない点を聞いて資料を貰うなど、市と連絡を密にしている。 年2回程度市職員の来訪があったり、災害時には市からの協力要請を受け入れるなど、日頃から協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのポスターを掲示し、日頃のカンファレンス、職員の全体会議に於いても身体拘束について話し合い、学んでいる。身体拘束をしないケアを実践している。	契約書に身体拘束や行動制限を行わないことを明示し、定期的に研修や勉強会を開くなどで全職員が身体拘束の内容とその弊害を理解しているほか、意識付けのために事業所内のあちらこちらに啓発のポスターを掲示している。 緊急やむを得ず身体拘束をする場合に備えての書類一式を整備している。 玄関はセンサーで対応し、2階の入口は安全を考慮して利用者や家族等の同意を得て施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で日頃から、特に言葉遣いについて話し合い注意し合っている。毎日の申し送りや全体会議でも必ず勉強し、職員同士で声かけ等について注意し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議で資料を見ながら勉強している。必要と思われれば、地域包括、社会福祉課等に相談している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項について時間をかけて説明し、分からない点はないか確認している。改定等があった場合は文書で伝え、個別の疑問に答え、理解納得を図るよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会カードに意見、苦情を募っている。推進会議委員の家族や来園される家族には、できるだけ話を聞いている。今後家族会の発足、家族へのアンケート調査等していきたい。	重要事項説明書に苦情相談受付窓口を明記するとともに玄関に掲示しているほか、介護相談員を受入れたり意見箱を設置している。 職員は利用者からは日常の問いかげや会話の中から、家族等からは来訪時や電話連絡時に意見や要望を聴くよう努めている。 利用者から「食事の献立を掲示して欲しい」という要望が有り、1週間分の献立を居間の壁面に掲示している。 家族等から意見が出易くなるよう年3回から4回広報誌を発行し家族等に配布しているが、事業所の行事に家族等の参加を呼びかけたり、アンケートを実施して意見等を汲みあげるまでには至っていない。	事業所で開催する行事に家族等を招待し、家族間で交流する機会を設けたり、無記名のアンケートを実施してより広く家族等が意見や要望を表出できる機会を確保することを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見提案を日頃から聞くようにしているが、代表者が聞く機会がない。	施設長や管理者、職員は、普段から意見や提案を率直に言い合える関係を築いている。 月1回開催する職員会議では全員で顔を合わせ意見や提案を述べ合っているものの、運営者が職員の意見等を汲みあげる状況とはなっていない。 危険防止のため「立位が難しい利用者の場合には職員2人で介添えしよう」など、現場での困難事例はすぐに話し合っ利用者への支援に反映させている。	運営者へ職員の意見や提案が届くようなシステムを構築することを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与等の見直しはない。勤務状況、努力を把握する体制はない。職場環境、条件の改善はみられないが、介護職員処遇改善交付金を申請し、交付を受けている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、勉強会を毎月、行っている。職員については、経験年数に応じて外部研修を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表者は関知していないが、2ヶ月毎にグループホーム連絡会に出席し、意見交換、勉強している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化により悪影響がでないよう、入所当初は特に話しかけ、不安、要望、生活暦、習慣、好み等を聞いて、仲良くなれそうな利用者との席等配慮したり、馴染みの物を持って来て頂いたり、安心できる環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が安心して託せるよう、相談援助し、面会の時期を話し合ったり、様子をお知らせしている。また認知症に対する家族の不安等を受け留め、相談にのっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期に本人、家族と充分話し合い、入所の必要性を検討している。満床時の問い合わせには、他施設紹介する等している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	いつも馴染みの職員と昼夜共、長時間過ごす中で家族の様な関係を築いている。年齢が近い職員が多く理解し易い。利用者に相談し、意見を頂くことも多くある。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係を深めるよう、報告、連絡をしたり、来園時日常の様子を伝えている。疎遠になりがちな家族にも、広報、推進会議議事録等を送付したり、近況を知らせ、家族からの連絡事項等も、記録している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人に会いたい等の要望があれば、家族の同意の下、連絡をしている。帰宅願望や行きたい所があれば、家族に相談している。できる限り添えるよう努めている。	職員は近所の駄菓子屋に利用者と一緒に出かけたり、家族等の協力を得て親戚の集まりや墓参り、選挙などに行けるよう支援しているほか、家族等や友人が来訪した場合は、居室に案内してお茶を出している。 手紙の作成や電話の取り次ぎなどを支援し、利用者がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が継続できるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話し易い利用者同士の席を近くしたり、仲たがいた時は仲裁し、一緒にできるレクリエーションを提案したり、孤立しないよう働きかけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて相談や支援に努めている。移転先への詳細な情報提供をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	介護する側の一方通行にならない様、利用者の希望をきき、出来るだけ添うようにしている。毎日のカンファレンスや、サービス担当者会議で、担当職員から意見を聴き、話し合っている。	入居時に介護支援専門員が利用者や家族等から生活歴を聞き、記録している。 職員は「家に帰りたい」や「温泉に行きたい」などの利用者の希望を家族等に伝え、思いが叶うよう努めているほか、意思を表明できない利用者には表情やしぐさなどを観察して一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	1年に2回異なった様式のアセスメントや長谷川式簡易スケールを用い、実施したり、利用者、家族に生活歴を聴き取り、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のペースで生活出来る様、できる限り意向を尊重している。レクリエーションも一人ひとり出来る物を提案している。入浴の順番や希望を聴いたり、外出の希望を聴く等、出来る限り個々のペースに合わせている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族来園時、出来るだけ話を聞いている。毎日の申し送り、サービス担当者会議を行い、毎月モニタリングしている。看護師、連携医往診時相談し、現状を把握した介護計画作成に努めている。	介護計画は利用者や家族等の希望を聞き定期的には1年に1回見直しをしているほか、心身の状態に変化が生じた場合はその都度見直し、利用者または家族等の確認を得ている。 利用者一人ひとりの毎日の経過記録を参考に毎月モニタリングを行い、現状に即した支援をしている。 長期目標期間は1年、短期目標期間は6ヶ月を基本に設定し、期間満了後に再検討をしているものの、目標自体は継続の状態が続いている。	目標達成が判断できるよう評価可能で具体的な目標を設定することを期待する。 さらに、援助計画では「いつ・だれが・どこで・どのように援助するのか」など、誰が見ても行動に移せる具体的な内容とすることを提案する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、訴え、本人の言葉等記録し、毎朝夕申し送っている。その中の特筆すべき事柄はケース記録に記入し、モニタリング時、活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時間の設定をせず、入所したばかりの家族に食事を提供して、一緒に召し上がって頂いたり、その時必要と思われる事を柔軟に対応している。本人、家族の状況や希望に、その都度対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月ギターボランティアの方が見えたり、定期的に地域ボランティアを活用しています。理美容は低料金でカット、毛染めができます。地域の行事、民謡等に参加したり、近くの商店に買い物に行っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設連携医は、毎週内科、隔週歯科、毎月皮膚科の往診、希望者は随時、精神科受診援助をしています。以前からの掛かりつけ医を継続している方もいます。希望を聞き、連携医以外の医療機関とも情報を共有し、支援しています。	2週間に1回協力医療機関からの訪問診療を受診できる体制となっているほか、利用者や家族等の希望にそって、かかりつけ医の往診や通院を支援している。 2週間に1回協力医療機関の看護師が来訪して全利用者の健康を管理している。 受診結果は電話や毎月の便りなどで家族等に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週1回程度訪問し、職員及び利用者に訊きとり、日頃の様子、薬の効果等相談し、記録しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は希望に応じ、衣類洗濯介助をしています。また家族、医師、看護師、SWと情報交換をしています。近隣HPのSWが窓口になり、日頃から入退所の相談等を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	特に、90歳以上の利用者にはターミナルの意向を聞いている。また、入所時意思確認を行い、状態の変化時も確認をしている。終末期ケア希望の方には、施設で出来ること、出来ないこと、緊急時の対応等説明し、職員間でも同じ指針でケアしている。	「看取りに関する指針」を作成し、事業所でできることとできないことを明確にして利用者や家族等に説明したうえで同意を得ている。職員はエンゼルケアについての研修を受講し、利用者や家族等と意思を共有しながら終末期の支援にあたっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED、救急救命講習に年1回受講し、対応を学んでいる。受講出来なかった職員には、個別に内部研修している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を行い、夜間想定での避難訓練も行っている。有事には地区の区長、民生委員を通して協力を仰ぐ体制を作っている。毛布等寄付を募り、確保している。食物、飲料水等も備蓄している。	年2回昼間や夜間を想定した消防訓練を実施し、訓練の状況や反省点、今後に向けての課題等を全職員で話し合い、記録に残している。災害時においては地域の協力が欠かせないとの考えから、施設長は近隣住民と事業所による避難訓練日を設けている。非常時に備え食糧や飲料水、毛布類、コンロなどを玄関脇の倉庫室に備蓄している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉遣いに心がけている。職員同士で注意し合っている。特に、排泄に関しては出来るだけプライバシーを損ねないようにしている。	職員は利用者に対して呼び方や言葉遣いなどに気を配り、言葉の暴力がないよう意識しながら利用者一人ひとりの尊厳を大切に考え支援している。 個人記録などの書類は事務室の鍵のかかるロッカーに保管して情報漏洩に留意しているほか、個人情報の使用に際しては、利用目的を明示して利用者や家族等の承認を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	馴染みの職員なので、利用者は思いを表出している。希望をきいて、その人らしく生活出来るよう働きかけている。各職員が各利用者の希望、好みを把握するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ「待って下さい。」とわず対応するよう努めている。その日の天気や希望によって、一日の過ごし方を決めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	マニキュアや口紅など希望を訊き、つけたり、毎日、化粧している利用者もいます。理美容サービスでは希望で毛染めもしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	偏食や禁忌食は代替のものを提供している。季節や年中行事のメニューを取り入れたり、手作りクッキーやケーキを一緒に作ったり、調理の下準備や下膳、テーブル拭き等、手伝って頂いている。	献立は同一法人の管理栄養士によってカロリー計算されたもので、利用者の嚥下機能の状態に合わせて調理したり、嫌いな品は代替品で対応しているほか、外食の機会を設け、食事を楽しむことができるよう支援している。 利用者は料理の下ごしらえやテーブル拭き、下膳などできることを職員と一緒にやり、両者が同じテーブルで談話をしながら同じ食事を摂っている。 クッキーや紅白まんじゅうなどのお菓子作りも利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を管理している。グループ運営の特養の管理栄養士作成のメニューを使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけて歯ブラシして頂き、その人に合わせ介助でうがい、口腔清拭、義歯洗浄している。毎食前に口腔体操を実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿、便意のない利用者でも、座位可能な方は、昼夜共オムツはせず、定時トイレ誘導している。	職員は利用者の生活リズムや排泄のパターンを把握してトイレ誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。 夜間もトイレ誘導やポータブルトイレを利用し、なるべくおむつを使わないよう支援している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の献立に気をつけ、軽度の体操を行い、排便の有無を確認している。出来るだけトイレで、排便しやすい姿勢にしたり、腹部マッサージをしている。便秘がちな利用者は下剤服用している。医師に相談し、出来るだけ常服でなく、頓服にしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回入浴日を決めているが順番、時間は希望をきいている。その日入浴出来ない利用者は翌日希望に応じている。	入浴日は一日おきとしているが、利用者の希望や状況に応じて別の日の入浴も可能となっている。 入浴を拒む利用者には無理強いせず、時間帯を変えたり呼びかける職員を替えるなどの工夫をして対応しているほか、菖蒲湯や柚子湯、足浴などで利用者が入浴を楽しめるよう支援している。 脱衣室は広く、ベッドやヒーター、扇風機を置いて利用者が快適に入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息したい時は自由に居室にて休まれているが、昼夜逆転にならないよう声掛けしている。電気、テレビを点けたままが安心する利用者は、入眠後テレビを消す等配慮し、温度調節している。不眠時は足浴したり、睡眠導入剤服用者もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬説明書をファイルし、職員が目を通し易くしている。薬が変わった場合等、特に様子を観察し記録している。必要に応じ医師に相談している。精神薬については、家族に相談している。糖尿病薬服用者は、低血糖に注意している、薬は施錠管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫の得意な利用者には、縫物をして頂いたり、編み物やカラオケや歌、かるた、トランプ、塗り絵等、嗜好に合ったレクリエーションを実施している。月1回～2回ボランティアの演芸等受け入れ、季節行事、誕生日会など行っている。嗜好品のコーヒー等提供している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日中、天気の良い日には外気浴、散歩をしている。年2回程度、車椅子使用者も車で近隣に出掛けている。遠出の時は家族の協力を仰いでいる。	天気の良い日は事業所周辺を散歩して四季の移り変わりを肌で感じたり、気分転換ができるよう支援している。 散歩ができない利用者には、少しでも外気に触れることができるよう庭にテーブルや椅子をセッティングしてお茶飲みを誘うなどの工夫をしている。 花見やショッピングセンターなど普段行けない場所でも家族等の協力を得ながら車いす利用の利用者も一緒に外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者によって、お金を一部自己管理している。預かり金の出納は、毎月明細を送付している。大型デパートへの買い物外出をしたり、近所の店に菓子を買いに行ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時は電話をかけたり、手紙を出したり、受け取ったりできるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の写真や利用者の作品を飾ったり、季節の生花を活けたりしている。便臭等に注意し、換気、温度調整、加湿等している。	玄関や廊下、居間などには利用者の制作した手芸品や季節行事に因んだ工作物、行事を楽しむ利用者の写真、四季の花などが飾られ、家庭的で居心地よく過ごせる場所となっている。 玄関ホールに書籍棚を設けて利用者が閲覧できるようにしたり、椅子やソファなどを上手に配置して共用空間の中にあっても利用者の居場所が確保されるよう工夫している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭い施設なので、共同空間で独りになれないが、気の合った人と近くの席にしたり、居室で一人で過ごしたり、自分のペースで生活している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品を持って来て頂いている。カーテン、家具、仏壇、布団等、本人独自の居室にしている。入所時は特に、家族に協力を仰いでいる。	居室にはテレビやラジオ、冷蔵庫、ドレッサー、タンス、机など、利用者の馴染みの物品や仏壇や位牌など大切な物品が持ち込まれているほか、家族等の写真や寄せ書きなどが飾られ、居心地よく暮らせる場所となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースに手摺りがあり、カレンダー、時計は見易い位置にし、廊下等には物を置かないようにしている。状態に合わせて、夜間ポータブルトイレを使用している。			

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームきらめき2

作成日 平成24年10月22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	10	事業所の行事に家族等の参加を呼びかけたり、アンケートを実施して意見等をくみあげるまでには至っていない。	事業所の行事に家族等の参加を呼びかけ、無記名アンケートを実施する。	10月に秋の外出行事（ショッピングセンターで買物と外出を楽しむ）に家族へ参加を呼びかけた。今後行事の度にお誘いする。アンケートも実施予定。	2ヶ月
2	11	介護計画の期間終了後に再検討をしているが、目標自体は継続の状態が続いている。	目標達成が判断可能で具体的な目標を設定する。	できるだけ、短期目標に於いて、目標達成可能な、具体的な目標を設定するよう努める。	各利用者の介護保険認定期間終了時
3	26	運営者へ職員の意見や提案が届くようなシステムを構築していない。	運営者が職員の意見や提案を聞くシステムを構築する。	運営者が職員の意見や提案を聞くように、文書にしたり、直訴しても改善しない。改善しても数ヶ月で元に戻るので、職員全員期待していない。辞めるしか方法はない。	未定
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。